

マンスリー

サンズ・トーク(53)

2013.4.1

木村 讀

南房総旅日記

3月、関西出身の旧友3人と、南房総の先っぽを見てまわる旅をした。人形町のホテルに一泊、翌朝、東京駅からJR高速バスで出発。バスは、東京湾アクアラインを経由、館山で下車、そこでレンタカーを借りて、まず房総半島の最西端へ行った。

洲崎(すのさき)灯台(館山市)

洲崎灯台は、大正8年に点灯され、東京湾の入り口を示す重要な灯台なのだ。太平洋から入ってきて、灯台を越えたら東京湾というわけだ。



野島崎灯台(南房総市)



房総半島の最南端に野島崎灯台があり、明治2年に点灯された。小さな船溜りの前にお食事処があって昼飯を済ます。高さ29メートルの灯台は、上に登ることができる。灯台の外側は磯が見渡せ、そこに太平洋プレートがヒタヒタと押して来ているのだ。ちなみにこの灯台、大正12年の関東大震災では倒壊し、2年後に再建された。

鴨川グランドタワー(鴨川市)

今夜の泊まりは、外房きっての老舗、鴨川グランドホテルの別館、グランドタワーです。25階という高みからの眺めは素晴らしく、広々としたコンドミニウム仕様の設備は、リゾートクラブJYROによって運営されている。クラブの責任者は、私懇意に願っているHさんです。夕食は、和食処、生簀箆の新鮮な海鮮会席料理で、一同、堪能しました。

鈴木真砂女記念館

グランドホテルの本館には天然硫黄温泉と光明石温泉があって、やはり大浴場はくつろげる。



それから、本館にある鈴木真砂女記念館を拝見した。平成11年に飯田蛇笏賞を受賞した俳人、鈴木真砂女は、このホテルの前身吉田屋旅館の家付き娘で、宿を切り盛りする女将だった。ところが、生さぬ恋のため旅館を出奔、平成15年、96才で亡くなるまで銀座で小料理屋「卯波」をやっていた。その奔放で一途な人生は、丹羽文雄や瀬戸内寂聴などの小説にも取り上げられている。生簀箆というのは、彼女の第一句集の名でもある。

羅(うすもの)や 人悲しませ 恋をして

第一句集生簀箆にある句

初凧や もののこほらぬ 国に住み

ホテルの庭にある句碑

あるときは 船より高き 卯波かな

近くの景勝地、仁右衛門島にある句碑

ホテル前のなぎさの潮騒を聞いていると、真砂女の人生が偲ばれ、句の切迫感がひしひしと伝わってくる。私は以前、銀座の卯波に行ったことがあるが、真砂さんは、既に店には出ていなかった。L字型のカウンターの小さなお店だった。